



# Katana Caza Mayor Kennel

## カタナ・カザ・マヨール犬舎の使命

カタナ・カザ・マヨール犬舎(動物取扱業登録番号 50-059 横浜市)では、ドゴ・アルヘンティーノのスペシャル・ブリーディングをプロデュースします。カタナ犬舎のジェントルでロイヤリティーに溢れるプレミアム・モデルのドゴ・アルヘンティーノ。それは高度な知識と機能的訓練に基づいたプロデュースによるものです。そのラインは、名門アガジャス犬舎(この犬種のバランスを高度な知識で保ち、狩猟犬としてのこの犬種の姿を名実ともに示してきた犬舎)、アンタレス犬舎(骨量があり、強く、簡単に獲物を維持する。この犬種の歴史を刻むカランチョを作出)、本犬種創造者家族によるラ・コチャ犬舎(本犬種を維持するために選抜された犬を所有)に直結しています。

狩猟、防衛、家庭犬として、いずれにおいても追随を許さない血統の犬たちです。カタナ犬舎はドゴ・アルヘンティーノのブリーディングに関して、ひとつの妥協も許しません。単なるショー用や単なる狩猟用などという区分とは一線を画する機能的なドゴ・アルヘンティーノ。その真髄にご期待下さい。カタナ犬舎は全て予約制により仔犬を繁殖し、お譲りしています。厳選された新しいオーナーだけが、カタナ犬舎の仔犬を所有することが許されるのです。

仔犬を手にした新しいオーナーはその優れた仔犬たちに様々な訓練を行いたいと考えるかもしれません。家庭犬としての服従訓練、あるいは防衛や狩猟などの特殊訓練。基本的な服従訓練はオーナー自身が行うことが理想的です。しかし、特殊訓練は一般家庭で行うには制限を持つことでしょう。私たちは、U.A.C.(アルティメット・アニマル・シティー)で様々な機能的訓練を行っています。オーナーのニーズに合わせて、カタナ犬舎の体育の先生(機能的訓練士)が訓練を行っています。

## 本犬種創造者 Dr.アントニオ・ノレス・マルティネス

この前代未聞の驚くべき犬種は多くの人々の熱意によって集積され、形作られていきました。しかし、その青写真は私の祖父であり、この犬種の創造者であるDr.アントニオ・ノレス・マルティネスによるものです。祖父はアルゼンチン共和国のコルドバ市で1907年11月18日に生まれました。南アメリカの最も著名な外科医の一人ですが、祖父の名前は「ドゴ・アルヘンティーノ」の創造という素晴らしい活動により、伝説となっていました。犬の繁殖とハンティングを愛したゆまない伝統主義者であり、偉大な科学者であった祖父は、若い頃から関心を示していた新種の犬を作出するための具体化を進めていました。短期間で遺伝的に安定した新種を作る方法を理解できなかったその当時、祖父は重要な科学と遺伝の文献に値する質を有していました。祖父はこれを書物に残しています。

しかし、目標の最終段階でハンティングの途中に祖父は殺害されました。1928年に祖父はこの活動を開始し、1947年にサンルイスでイノシシやクーガーに立ち向かう「アーニャ(Ana)」というドゴの格闘を実践的に示し、この犬種を紹介し、披露しました。そのすさまじい勇気とすばらしい抵抗力を備えており、非常に穏やかな犬でした。ドゴの作出は多くの犬の重要な能力(質)を加えることにより行われていきました。コルドバの古い闘犬、ブルテリア、その他多くのワーキング・ドッグです。多くの血統を用いて「狩猟の最高峰」として定式化された犬を作出することができたのです。祖父の死後は、弟のアウグスティン氏がさらに完成を目指し、公式に認可されました。ドゴ・アルヘンティーノは世界中に広まりました。一方で機能的なドゴの繁殖がおろそかになり、私たち家族は機能的なラインを保ち、運動性能の高いドゴを守っていく努力をしています。クラブ・ジャパン代表であり、カタナ・カザ・マヨールのオーナーである若島博士にはこうした活動のアジアの代表として協力していただいている。日本において機能的なドゴが作られていくことを期待しています。

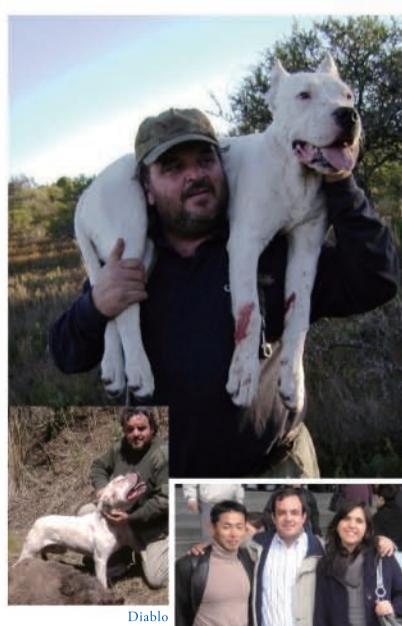
ウリセス・D・アンドレア・ノレス(Dr.Ulises D' Andrea Nores, La Cocha)



## Dr.フェルナンド・エドワード・モレノの貢献

Dr.フェルナンド・エドワード・モレノ(1946年2月25日生)は、2005年12月1日に心臓発作で死去しました。ドゴ・アルヘンティーノのブリードにおける彼の貢献は絶大でした。彼は真的ハンターであり、40代の頃までドゴを使用したイノシシやビューマの狩猟をしていました。その中で彼は真的ドゴを追及していました。彼は近年の欧州および現地のドゴがその「典型」として認められず、ドゴの行方をたいへん気にしていました。私は彼を日本に招聘できなかったことを悔やみます。しかし、彼の意志は本犬舎のデュルセ・グロセーラ・ディ・アガジャス(Dulce Grosella de Agallas)に受け継がれています。最後の「典型」を日本に輸入することができたことに感謝と誇りを感じにはいられません。彼からの最後の手紙(亡くなる数日前)をここに記します。

「...私はクオーレ(Quore of Katana Caza Mayor)とグロセーラ(Dulce Grosella de Agallas)の交配は真的ドゴを作り上げると確信しています。私は以前に同様な系譜での繁殖を試みましたが、その結果は素晴らしいものでした。私はあなたの仔犬を私の手元におきたいのであなたの仔犬を楽しみにし、また、それをとても名誉なことだと感じています。本当にありがとうございます。来週、私はあなたとあなたの仔犬についてFCAのドッグ・ショーでティト(アルバート・ガーファンクル氏の愛称)と話したいと思います。再びありがとうございます。あなたの友、フェルナンドより。」



Dr.Ulises D'Andrea Nores and Dr.Carolina

## カランチョ、アレフ、クアトレロの系譜

私は生後45日以前にカランチョ(Caranchito de Antares)を手に入れました。カランチョは6頭のオスの仔犬の中の1頭でした。このブリードを行なったのはマリア(Maria Angelica D'Aflitto)女史であり、私は自由にガーデンの中にいる全てのオス犬を見て回りました。そして、すぐに、私はカランチョを見つけて、夢になりました。これが私が選んだ犬であり、私に正しさを与えた瞬間でした。彼はワールド・チャンピオンであるタルisman(Talismán)、そして1988年にアルゼンチンでベスト・メイルを獲得したアレフ(Audacity Alef)の父犬です。人々はそれを信じられないかもしれません、私は最初の瞬間からカランチョを手に入れたのです。その息子が偉大なチャンピオン、アレフです。アレフは大変強い気性のドゴであり、実際に私がブリードした最初の犬でした。

カランチョとアレフ、この2頭のドゴはこの時期の特別なもう一頭のオス犬・偉大なチャンピオン・インディオ(Indio del Litoral)とともにドゴ・アルヘンティーノのブリードの歴史を築きました。インディオはカランチョやアレフに勝てる唯一のドゴであり、アレフもまたインディオに勝てる唯一のドゴでした。私の記憶が確かならば、この3頭のドゴがこの犬種における過去15年の歴史を築いたのです。クリスマスはアレフやインディオには決して勝利することできません。同様に、偉大なドゴであるバロン(Baron de La Herencia)も勝利することができます。

そして現在、私は偉大なロッコ(Rocco de Antares)を私のラインにおきます。彼はこの犬種の15年の歴史の中でのトップ・スターであるクアトレロ(Audacity Cuatrero)の父です。クアトレロは世界中の全てのブリーダーの夢です。私は彼のブリーダーとして多くの誇りを持ちます。そして私は若島氏が彼のオーナーとして多くの誇りを持つであろうと確信しています。

アルバート・ガーファンクル(Mr.Albert Garfunkel, Audacity)

